丹波地域の貴重植物の探索と保全活動

丹波地域の自然環境

丹波地方は兵庫県（旧多紀郡、氷上郡：現篠山市、丹波市）と京都府（亀岡市、綾部市、福知山市、北桑田郡、天田郡、船井郡の3市3郡）に渡る広大な地域です。地名は谷端（タニハ）または田庭（タニハ）から由来し、丹波となったといわれています。

この地域に特有の植物は現生種一種と絶滅種一種ずつしか知られていません。オオマルバノコンロンソウ（アブラナ科）と既に絶滅したタンバヤブレガサ（キク科）です。

篠山市北部を東西に連なる多紀連山は丹波層群の堆積岩からなり、山頂の尖峰は風化に強いチャートなどからなり、ベンケイソウなどの岩場を好む植物が生育しています。

西紀町から氷上町にかけての盆地には氷期・間氷期にかけての気候変動に伴い丹波帯の岩石が風化してできた礫が山麓部に堆積し、クリ畑などに利用されています。この礫質の土壌に適応して生育するセツブンソウ、アズマイチゲなどの春植物がクリ畑の林床に見られ、ナニワズといった希少な低木も林縁に見られます。

シカの増加

近年、日本各地で鹿の個体数の増加が訪報告され、それとともにシカの食害が問題になってきました。シカの増加した原因は地球温暖化の影響で冬の死亡率が減った、狩猟するハンターの高齢化によりシカが撃たれなくなった、里山林がスギ・ヒノキの人工林に変わったため、シカの食べる餌が減ってきたなどの原因が考えられていますが、よくわかっていません。

シカの食害の影響は丹波でも顕著で、従来は食べなかったネザサや常緑樹の葉まで食べられるようになってきました。

丹波の貴重種の探索

丹波地域での貴重種の探索は様々な個人、団体からの情報提供などをもとに進めています。

クリンソウ群生地の発見と保護

クリンソウの大群生地の発見では、2007年に地元の植物愛好家から連絡を受けたことから始まりました。それまでも丹波周辺にクリンソウが自生していることは知られていましたが、数万株の群生地が見つかったため、現地調査を行いました。現地調査で、川沿いの4000m^{2}に開花個体だけでおよそ6万株が自生していることが明らかになりました。おそらく西日本では最大規模の自生地であろうと考えています。地元の有志100人ほどで守る会を立ち上げ、2年後に一般公開を始めました。

クリンソウ

ベニバナヤマシャクヤクの発見

最近、各地で発見の報告が相次いでいる植物です。ベニバナヤマシャクヤクはシカの不嗜好植物であるため、シカの増加によって、増えている可能性があります。丹波でも数か所で見つかってきました。

ベニバナヤマシャクヤク

丹波地域の貴重種の探索と保全活動

代表者：藤井俊夫

分担者：大阪市立自然史博物館

協力者：多紀連山のクリンソウを守る会、ささやまの森公園、江古花園、ささやま自然の会、丹波自然友の会、青垣町森自然環境保全友の会